
巻 頭 言

本学会の機関誌『パーソナルファイナンス研究』(No.12)をお届けします。

ここ数年のAIの普及はパーソナルファイナンスの世界を劇的に変化させつつあります。与信やマーケティングのやり方だけでなく、金融教育のあり方にも大きな影響を与えることは間違いありません。AIの普及は、データの利用法に関する基本的な考え方の大きな変化を伴っており、パーソナルファイナンスにまつわる個人や企業の意思決定だけでなく、研究の方法論一般を変えるかもしれない。われわれが研究者として訓練されてきた、仮説から出発してデータがそれに合うかどうかを調べる仮説検証型の研究方法論では対処できない時代がくるかもしれない。

本号では、査読付き論文として「金融教育の成果検証—受講者の非合理的特徴と教師の授業改善の視点から—」、「ビッグテック企業の金融機関化—米中の比較を通じて—」、「SNS型詐欺の被害防止に向けた啓発ポスターの制作とナッジ要素の検証—福井大学における行動経済学教育の実践報告—」および「ヤミ金融、いわゆる「ひととき融資」に関する研究—資金需要のある女性を狙った消費者金融市場から分化したヤミ金融の実態—」の4編を掲載しています。いずれの論文も、パーソナルファイナンスをめぐる環境や時代の変化やそれらに伴う社会的課題の解決にかかわる意欲的なものです。

本機関誌は、全国大会での統一論題および自由論題をベースにした論文、自由投稿論文、招聘論文からなっており、平素の研究活動の成果を公式に発表する場であると同時に、他の研究者が取り組んでいる新しい研究テーマやその成果について学ぶ場という重要な役割を担っています。研究成果の全国大会での報告とともに、自由投稿も含めて、会員の皆様のいっそうの寄稿をお願いする次第であります。

2026年3月

パーソナルファイナンス学会
会長 坂野友昭

